

少年消防クラブ交流会

防災課

8月7日から9日まで、北海道、東北、関東地方の少年消防クラブ18クラブ（クラブ員84名、指導者36名、合計120名）と岩手県の少年消防クラブ4クラブ（クラブ員15名、指導者5名）が参加して「少年消防クラブ交流会」が岩手県内で開催されました。この交流会は、東日本大震災被災地の消防団等から震災の教訓を学ぶとともに、他地域の少年消防クラブ員と交流を深めることにより、将来の地域防災の担い手（消防団等）育成を図ることを目的として、消防庁が（財）日本防火協会、（財）日本消防協会、岩手県、（財）岩手県消防協会並びに関係市町等のご協力を得て実施したものです。

少年消防クラブは、防火・防災思想の普及を図ることを目的として、少年少女で結成されている自主的な防災組織で、平成23年5月1日現在、全国に約5千の少年消防クラブがあり、約43万人のクラブ員と、指導者約1万5千人が活動しています。

交流会では1日目に陸前高田市の被災現場の視察を行いました。がれきの撤去は着実に進んでいるものの、津波により押しつぶされた車や、押し曲げられた建物の鉄骨を目の当たりにし、クラブ員はそれぞれ感じたことを一生懸命メモに記録していました。また、陸前高田市消防本部の岩崎消防長から東日本大震災当日の様子についてお話をいただき、「津波が事前の想定を超えて建物の3階の高さまで浸水した」、「自分が住む場所の危険箇所を確認して、どのように行動したら良いか考えておくこと」等のお言葉に、真剣に耳を傾けていました。その後、遠野市に移動し、遠野市の少年消防クラブも参加して各クラブの活動紹介や郷土芸能の語り部の鑑賞を行いました。

2日目は矢巾町に移動し、ヨーロッパ青少年消防オリンピックの競技種目を参考にホースの搬送やロープの結索等を取り入れた合同訓練を、矢巾町の少年消防クラブも参加して行いました。また、昼食時には、矢巾町消防団の方々から日頃の活動についてお話を伺いました。次に、岩手県総合防災センターに移動し、地震体験室や暗闇・煙体験室で地震や火災の恐怖を擬似体験したり、さまざまな災害の発生のしくみについて学習したりしまし

た。その後、盛岡市立区界高原少年自然の家（所在地は宮古市）に移動し、宮古消防署川井分署、宮古市消防団及び川内婦人消防協力隊のご協力の下、宮古市の少年消防クラブも参加して炊き出し訓練とキャンプファイヤーを行いました。炊き出し訓練では、まきの火力調整に苦勞しながらも、おいしいカレーライスができあがりました。キャンプファイヤーでは、レクレーションを通してクラブ員の親睦が深まりました。また、野外宿泊訓練として、参加者全員テントで宿泊し、団結を深めました。

3日目は、区界高原の新鮮な空気の中、全員でラジオ体操を行い、その後、野外活動として、山道のハイキングと小川で水晶探しをしました。

参加した少年消防クラブ員の皆さんには、交流会での体験も活かし、少年消防クラブ活動にさらに励み、家庭や学校あるいは地域で、防火・防災の輪を広げていくリーダーとして活躍されることを期待しています。



陸前高田市被災現場の視察



合同訓練の様子

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 地域防災係 浦田、中村
TEL: 03-5253-7525